

2020年7月31日

2020年1学期終業式 式辞

副校長 竹山 幸男

2020年度の学年、学期の始まりは、いつもと違うかたちで始まりましたが、本日1学期の終業式を迎えられることができたことを心より感謝しています。本日は、感染症の状況、その他いろいろな事情のため登校せず自宅待機しておられる生徒の皆さんもおられることを覚えながら、お話を聞いていただければと思います。

前回までの礼拝で、同志社の創立者・新島先生が、フィリップスアカデミーに留学中の夏休み、アンドーバーからボストンを経由して、テーラー船長の実家のチャタムに向かう途中の汽車でうっかり乗り過ごしをして、夜に知らない町に着いたお話をしました。途方にくれてどうしようかと迷っていると、教会が目に入り牧師と会い、いろいろとやり取りをしているうちに、最初は50セント、次は船員会館、最後にはその町一番の高級ホテルに泊まることができました。新島先生は、このできごとを振り返り、単なる「運がよかった」ではない、神様の見守りと導き、「摂理(プロビデンス)」があったことを確信し、手紙に記しています。

さて、その話の中で、アメリカではじめて一人で列車に乗って、シカゴからサンフランシスコに向かった私のお話も途中までしていたところです。シカゴからデンバーまでは見渡す限りのとうもろこし畑の真ん中を走って、デンバーからはロッキー山脈を越えるために草原を超えて時折、岩肌がごつごつした山の中を走り、そこから砂漠のエリアに入りながら、2泊3日かけての旅が続くのですが、駅に着くたびに数時間ずつ遅れていた列車は、3日目の朝には予定よりすでに8時間ほど遅れていました。まだ携帯電話などがない時だったので、砂漠の真ん中に停まった列車では、駅の電話機に乗客が次々並んで、順番に列車が遅れていることを連絡する光景が見られました。私もその駅から電話をしたのですが、うまくつながらないまま列車に戻り「神様の見守り」を祈りながら、さらに西へとめざしました。結局、その列車は、朝10時ごろ到着のはずが夕方7時ごろサンフランシスコのオークランド駅に着きました。アメリカの鉄道の駅はだいたい昔の街の中心地、ダウンタウンにあるので、治安の悪いところがわりと多いのですが、当時のオークランド駅も、大きな駅舎は廃墟のようになっていて、その横に小さな停留所があり、とても不安になったことを思い出します。出迎えていただいた牧師先生は、一度もともと到着の予定時間に駅に来られたのですが、到着の気配がないので、アムトラックの会社の方に問い合わせ、あらためて到着の予定時間に来ていただいたようで、無事にお会いできてほっとしました。車か飛行機が主な移動手段のアメリカで、駅に来たのも初めてということで、半日も遅れて平気で到着する列車のことをびっくりされていました。日本の新幹線などでは、わずか2・3分遅れるだけでお詫びの放送がわざわざ入ります。「列車は時間通り来るもの」「予定はしっかりと立てられるもの」という日本では当たり前のことがそうでなかったことに驚くとともに、不安な中にも神様の見守りと導きがあったことを神様に感謝したことを今でも思い出します。

この経験があったので、大学の寮が閉まる休みには、1か月300～500ドルくらいのRAILPASSを使って、広いアメリカを周っていくことができました。前もって手紙を書いて電話をして、親切なクリスチャンの方のお家に泊めていただきながら、いろいろなところを訪ねることができました。(グランドキャニオンだけは友人とホテルに泊まりましたが・・)アメリカは広くて、西海岸のロスアンゼルス→シアトル:1泊2日、西海岸のシアトル、サンフランシスコなど→シカゴ2泊3日、シカゴ→ボストン、ニューヨークなど東海岸1泊2日かかります。飛

行機でも、西海岸とシカゴでも 3 時間。日本に比べると本当に広いですね。列車での移動は「3 時間～半日は遅れるもの」ということを理解しながら、「到着したら連絡させていただきます。」ということで、動き方もだんだん慣れてきました。こんな調子なので、長距離列車に乗っている乗客は、時間を気にしていないリタイアした(現役引退した)人が多かったことを思い出します。

今週月曜日から木曜日は、生徒の皆さんにとっては、生徒面談週間、自由研究準備期間などの週でしたが、zoom を用いた学びプロジェクトの一環として、国際交流についての連続セミナーを実施しました。先週はその打ち合わせで、アメリカのロサンゼルスとボストン、そして、京都と大阪を zoom でつないで、日本では朝と夜に 3 時間ほど打ち合わせをしていました。時間と場所、空間をあつという間に超えて、リアルのときよりも、もっと簡単に世界とつながることができる、とても不思議な気持ちになりました。日本とアメリカ、アメリカの広さ、実際の距離感を感じているからこそ、余計にその思いは大きくなっているのだと思いました。コロナ感染症の状況の中で、生徒の皆さんに現地を訪問する留学体験をしていただくことはできません。留学体験は、全身で五感をフル回転させながらリアルで受け止めるものが一番いいと思いますが、今年はそれができないかもしれません。しかし、いろいろな工夫の中で、それに代わるオンラインでのさまざまなプログラムを次々と紹介していますので、同志社中学校のホームページの「国際交流プログラムページ」または学習ポータルサイトをぜひご覧ください、積極的に参加していただけることを期待しています。(それぞれのプログラムの動画案内もぜひご覧ください。)

2020 年度 1 学期の終業式を迎えるにあたり、皆さんにお伝えしたい1つめのことは、「マインドセットを変えること」です。当たり前ものが当たり前でなくなったとき、いつもできていることができないときに、どう考え、どうするのか。できないものと思わないで、その条件の中でできることは何かと考えると、新しいものを生み出していくことが大切です。マインドセットを変えて新たなものを生み出していくプロセスでは、不安になったり、本当にうまくいか迷い、アイデアが出てくるまで悩むこともあると思います。キリスト教主義学校で学ぶ私たちは、そのプロセスを支え続けてくださるといふ安心感も、「神様の見守りと導き」の中にあるということに特に覚えて、また、体感していただきたいと思います。



NEW MINDSET
NEW RESULTS

今週の日曜日には、私が通っている教会のオンラインでの礼拝を終えたところに、風間浦村の越膳教育長からの電話がありました。「大変残念なのですが、10 月の同志社交流は見送りとさせていただきます。25 年以上にわたってずっと続けられているもので、特に訪問予定だった中学 2 年生の気持ちを思うと・・・。」もともと、村の職員の時代から、風間浦村にある新島先生寄港の碑創立に尽力されてきた先生なので、越膳先生自身もまたとても残念な思いをされていることが伝わってきました。私の方からは、「まったく何もできないというのではなく、やれることを考えていきましょう。オンラインでの生徒交流、校内案内(今出川キャンパス案内など)もできると思います。すでに風間浦中学校への同志社中学校の遠隔授業は英語(反田先生)でも行われていますので。」(青森県のテレビ、新聞では大きく報道されました)とお答えしました。越膳教育長は私とお会いするたびに、そしていろいろな話をされるときに、「プロビデンスですね。」(神様の導きと見守り:「神様の摂理(Providence)」)とよく語ってくださいますので、今回のこともまた、お互い「神様の摂

理(Providence)」に委ねて、新たな計画を立てることができればと思いました。

今週の月曜日には、生徒会の執行委員会の皆さんとの zoom 会議にも参加しました。学園祭についても、全く新しいものを生み出そうという「マインドセット」に切り替わって、すでにいろいろなアイデアをそれぞれのメンバーが考えてくれていてとても頼もしく思いました。生徒の皆さんにもアイデアがあれば、ぜひ生徒会の執行委員の方にお伝えください。また、水曜日には、「なぜ日本の幸福度は低いのか」というテーマをもとに、横浜女学院の生徒の皆さんとのディスカッションに、同志社中学校の生徒の皆さんも参加するという学びプロジェクトがありました。20 名くらいの皆さんが参加してくれたのですが、事前の準備会では、テーマについてどう考えるか、それぞれの考える「幸せ」の尺度についてなどを交流して、あっという間に 1 時間の予定時間が過ぎていきました。本番のディスカッションでも、初めて出会う横浜女学院の生徒の皆さんとともに、同志社中学校の生徒の皆さんが発表や意見交流、先生の代わりにファシリテーターをしていただいた同中生もあったりして、大人顔負けの充実した学びのときを持つことができました。

「新しいものを創造すること。」私が思い描くイメージとしては、真っ白なキャンバスに自由に何かを描いていく。何をどんな風に描くのか。わくわく、ドキドキしてくるチャレンジもあると思います。学校というところは、前例を踏襲するということが多い文化があるのですが、今はそれがほとんど機能せず、「マインドセット」を変えて新たなものを、私たち教職員も生徒の皆さんも生み出していくことが、神様からのチャレンジとして与えられているものと思います。そういえば、同志社中学校で授業を始めたころ、「なぜ、教室で授業するのか?」と考え、「青空授業」をやってみたり、「最後の授業」はチャペルで、憲法前文の歌を聞いて 1 年間の学びを振り返ったりしたことを卒業生が覚えてくれていたことも、私の体験の 1 つとして思い出していました。

このようなことを思い起こしながら、この 1 学期間を振り返るときに、2 つ目に皆さんにお伝えしたいことは、100 年に一度のコロナ感染症への学校の対応を考えていくときに「正解のない問題」を解いている感覚にもなっているということです。毎週、新たな問題が次々に与えられ、それを解いている感覚。いろいろな変数要因がある中で、状況が変化していく中で、問い、視点をたてて、予測して、その上で調べて、いくつかのシミュレーションをして、検討していく。新聞やテレビ、その他医療面での提言、海外の動向などから、毎日情報を集めて分析していくことはとても大変なことでした。しかし、皆さんのご家族の方々も、それぞれの職場で、そして会社経営の中で、学校よりももっと厳しいビジネスの世界で実際の対応をしながら、さまざまな難しい状況の中でも、日々の歩みを進められていることと思います。このことは、実は、生徒の皆さんがこの夏休み「自由研究」で取り組もうとしていることと、同じ学びの視点が盛り込まれていると考えられるので、明日から始まる夏休みにぜひしっかりと取り組んでいくようにしてください。この学びの経験が、大学・社会人となり皆さんが仕事をするとき必ず生きてきます。後ほど、教務部の先生から、取り組みを進めるにあたっての具体的なお話があるので、しっかりと聞いてみてください。担当の先生との具体的なやり取りについては、学習ポータルサイトの動画も参照してください。

昨日、東京都医師会会長の尾崎先生のお話がテレビで出ていました。コロナ感染症の解決のためには、今が最後のチャンス。検査と隔離による感染防止と医療崩壊回避、感染拡大エリアへの営業自粛要請と休業補償、これらを可能とする法改正のために国会を開くこと。「コロナに夏休みはない」と。ワクチンができ、それが行き渡るのもしばらく時間がかかる(最低でも 1 年くらいはかかる)と言われています。ウイルスが目に見えない以上、いつでもどこでも誰でも受けられるPCR検査で陰性の人が、仕事に、学校に行くことができる、というシステムがあれば、疑心暗鬼にならず、もっと安心して安全でいのちと健康が守られながらいろいろなことができるのに、と考えてしまいました。海外でなされているさまざまな良いものを取り入れず、根本的な対

策が出されず、時間ばかりが経過している状況なので、今回の「正解のない問題」はより複雑になり、難易度が高まり、仕事場において、学校において、家庭において、具体的な対応のどこかにひずみが出てきやすい状況をもたらしていることを強く感じているところです。

このように「正解のない問題」を解いていると不安になることもあります。そして、考えにもいろいろな幅があり、さまざまな意見も出てくるのは当然です。しかし、そんなときにも最も大切だと思うのが、やはり「神様の導きと見守りを信じていることができる安心感」だと思います。この1学期を締めくくるにあたり、さまざまな困難や不安、悩みもあり、いまだその中におられる方もおられることと思うのですが、詩編の121篇の聖句にもあるように、どんなときにも、私たちが気づかないときにも、神様が



正解のない問題

私たちを愛して下さり、見守って導いてくださっていることを覚えて、祈りつつ日々の歩みを進めていければと改めて感じているところです。

「目を上げて、わたしは山々を仰ぐ、私の助けはどこから来るのか。私の助けは来る。天地を創られた主のもとから。」「主がすべての災いを遠ざけて、あなたを見守り、あなたの魂を見守ってくださるように。あなたの出で立つのも帰るのも主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。」(詩編121編1・2・7・8節)

昨年、スーちゃん(セラピー犬)の研究をしていただいた名古屋の大学の先生ともこの間やり取りをしているのですが、大学の先生方、学生たちにとっても全く初めてのオンライン授業ということで、戸惑っておられ、学部、学科の責任者をされているので、とても大変な思いをされているというお話を伺いました。そのときに、私は「比べるのが不謹慎かもしれませんが、『新島先生が32歳のとき同志社を創った苦労と困難』に比べれば「大したことはない、と思うようにしています。」と答えました。「新島先生が145年前の明治の時代に同志社の創立を成し遂げられたのも神様の導きへの信仰があったからこそ」と考えれば、同志社で学ぶ私たちが100年に一度の今回の状況の対応をするためには、150年前の新島先生の信仰と希望、マインドセットとイノベーションにも学ぶところが多いのではないかと思うところです。

最後になりましたが、3つ目に皆さんにお伝えしたいこと。終業式にあたりお読みした2つ目の聖句、学校の年間聖句「隣人愛」について、心にとめてみたいと思います。今回のコロナ感染症については、ふつうに考えるととても理解しがたく、難しい特徴を持っているウイルスではないか、と思いに至っています。

- 1:ウイルスというものは、目に見えないものです。火をふいていたり、とんでもない臭いがすればすぐ気づいてそれを避けられたり、程度に応じて正しく恐れることができるのですが、それができません。
- 2:ふつうは病気になると動けなくなります。しかし、このウイルスは感染しても、8割の人は軽症か無症状である、と言われています。ですので、動き回ってしまい、ウイルス感染を拡大させてしまいます。(※この点については、最近のアメリカの研究では、軽症、無症状の場合でも、知らない間に心臓に何らかの異常(心筋炎(炎症)などによるダメージ)が生じていることが判明(米医師会論文)したり、感染数週間後、持病がなくても若者2~3割が全快せず、せき、倦怠感、味覚・嗅覚障害、体の痛み、頭痛が続くという報告(米疾病対策センター)もなされているので、注意が必要です。まだまだ正体不明な点の多いウイルスです。:日本経済新聞8月2日朝刊など参照)
- 3:そして、ウイルスのすべてのメカニズムがわかっていないので、予測が不能。つまり、「予定は立てるもの」とされてきたものが、「予定は立たないもの」という場面に多く出くわされてしまいます。

4:最後に、ふつうは、「何かすることによって、何かを得る。」ということになります。しかし、「今回は、何かしないように。」「活動をしないように。」ということが勧められ、その結果何かを得る、目的を達するという事になっています。(『何かを「する」ことの正反対の要請』) 私たちにとって、「思うように動けない。」ということは、本当に我慢のいることであり、意識の転換(「倫理感覚の大転換」)が必要なことだと思います。(＊中央公論5月号「コロナ・文明・日本」山崎正和 72～79頁)

Love your neighbor as yourself.

Matthew 22:39

そこで大切なのが、やはり「想像力」だと思います。そして、そのベースには、年間聖句にもある「隣人愛」のスピリット。私たちも神様から愛され、生かされていることをどこまで体験として、心から感謝してその思いを持っているか。決して強制でなく、自然と湧き上がるように「隣人愛」「分かち合い」のこころを持っているか。

先ほど紹介した「日本人の幸福度はなぜ低いのか」のテーマ発表の中でも、「幸せは、得よう、得ようとしている人よりも、与えよう、分かち合おうとしている人にやってくるもの。周りの人から感謝され、つながりの中で幸せを感じる人が多い」という研究も紹介されていました。そういえば、同志社の創立の原点にも、名もない農夫の2ドルの献金があるように、「与えよう、分かち合おう」とした多くのアメリカのクリスチャンの方々の献金が私たちの学校の礎となっているのです。まさに「受けるよりも与える方が幸いです」という聖書の御言葉にぴったりあてはまりますね。今回のコロナ感染症では、「与えよう、分かち合おう」という“する行為”でなく、「私たちが自由に動き回らない」という“しない行為”が、感染拡大を防ぎ、多くの人々のいのちと健康を守り、救うことにつながっているという難しさがあります。「あなたのいのちを奪われないために。誰かのいのちを奪わないために。行動を我慢してもらえないでしょうか。」3月、コロナウイルス感染症の広がりが問題になり始めたときに、あるお医者さんから若い世代に向けて発せられたメッセージです。風間浦中学校の同志社訪問ができなくなったこと、私たちの日常の学校での活動もいろいろな制限がかかっていることには、犠牲や痛みを伴います。しかし今の状況を越えていくには、神様からの愛を注がれた私たちが、それを自分の感染防止のためだけでなく、身近な周りの人たちのために、友達の向こう側におられる友達のご家族の方々のために、メルケル首相が語られるように「想像力」をいかに働かせられるかが大切だと思います。

「世界中で懸命に研究が進められていますが、治療法もワクチンもまだありません。唯一できることはウイルスの拡散スピードの緩和などの時間稼ぎです。・・・(感染者数や死者数という統計上の数値が世界中のニュースで毎日出されていますが)これは抽象的な数字の話ではありません。あなたのお父さんであり、おじいさんであり、お母さんであり、おばあさんであり、パートナーであり、つまり生きた人たちの話です。」

イエスは言われた。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」「隣人を自分のように愛しなさい。」(マタイによる福音書 22 章 37 節、39 節))

「受けるよりは与える方が幸いです。」(使徒言行録 20 章 35 節)

<終禱>

明日から始まる2020年の夏休み、生徒ならびにご家族の皆さまのうえに神様の導きと見守りがありますように、そして、いつもと違う夏休みの状況の中でも、医療や介護に従事してくださっている方々、私たちの毎日の生活を支えてくださっているお仕事をされている方々のことを覚え、「想像力」を与え、私たちの心に主イエス・キリストの愛が注がれて、「隣人愛」のスピリットに生かされた日々を送ることができるよう、神様からの力をお与えくださいますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

保健部より

みなさんは今、新型コロナウイルス感染症のことをどのように考えていますか？
私たちのいのちと健康が守られ、安全に暮らすとはどういうことでしょうか？

今週に入って、新型コロナウイルスの1日の感染者数は、どこも過去最高を更新しています。大阪で200人を超え、愛知で100人、京都でも40人を超える日がありました。昨日は兵庫で50人を超えました。感染力が非常に強いことは間違いありません。全国各地で感染者数が増加し、各都道府県において警戒レベルがかなり高くなってきている状況です。病院では人手不足や、中等症の方を受け入れる病棟が不足する可能性があるという報道はよく耳にします。また、先日NHKの特集で、21歳の大学生がPCR検査で陰性になって退院したあとも、数か月にわたって発熱やけん怠感が続いたり、呼吸機能や運動能力の低下で、日常生活に支障が出ていたりすることが報告されていました。

みなさんはお家に祖父母の方がおられたり、よくお会いしたりされますか？
幼い弟や妹はおられますか？

高齢者や基礎疾患のある方は重症化する可能性が高く、死亡率も高くなっています。2歳未満の子どもも重症化のおそれがあることが分かっています。10代、20代の若い世代は軽症か無症状の方が多いと言われていますが、中には重症化するケースも報告されています。また、軽症・無症状なのでかえって動き回ってしまうことにより、周りに感染させてしまう可能性が高くなると言われています。中学生が発熱し、感染が判明。ご家族が濃厚接触者になり感染という報道もあります。その逆のこともあります。また、一度感染した方で無症状で経過した多くの人は再感染するリスクは高いとも言われています。

同志社中学校は、みなさんはもちろん、みなさんのご家族のいのちと健康を一番に考えています。学校での活動内容や利用場所の制限があり、みなさんに不自由な思いもさせていると思いますが、みなさんのご家族のいのちと健康を考えての判断であることを理解してくださいと幸いです。

今週、検温を忘れた人は、自分から保健室で検温してから教室へ向かってくれました。立志館入り口の手指消毒液でもしっかりと消毒してくれています。暑くてもマスクを忘れる人はありません。養護教諭としても皆さん自身が基本的な感染症対策を実践できているということ、とても嬉しく思っています。自分自身と大切な方々を守るために、今、わたしたちにできることをこれからも続けていきましょう。学校やお家で気をつけていても、外出先や交通機関などでも感染する可能性はあります。誰にでもその可能性があることを心に留

めておくことも大切です。明日から夏休みです。みなさんには元気で楽しく過ごしてほしいと願っています。そのために保健部から3つのお願い(後掲)があります。よろしく願いいたします。最後にドイツのメルケル首相の言葉を紹介します。

「たとえ今まで一度もこのようなことを経験したことがなくても、私たちは、思いやりを持って理性的に行動し、それによっていのちを救うことを示さなければなりません。それは、一人ひとり例外なく、つまり私たち全員にかかっているのです。みなさま、ご自愛ください。そして、愛する人たちを守ってください。」

夏休み期間中の保健部からの3つのお願い

1.健康観察について

ロイロノートは継続します。提出してください。

アンケートフォームについては8月21日からは毎日入力してください。

2.感染症対策について

今回のウイルスは接触感染・飛沫感染だと言われています。

マスクを着用し、咳エチケット、手洗いを徹底しましょう。消毒しない手を目・鼻・口に持って行かないように気をつけてください。

そして三密を避けましょう。

免疫力を高めるため規則正しい生活を心がけましょう。

3.熱中症対策について

マスクをしていると熱中症になりやすいです。

こまめに水分補給をして、距離がとれるところではマスクを外して休憩しましょう。

(保健部:阪田)